

受原三納原のマンシュウボダイジュ

所在地：庄原市東城町受原

指定年月日：未指定

所有者：横山 弘明

根回り周囲：1.65m

胸高幹囲：1.41m

樹 高：約 20m

絶滅危惧種、シナノキ科の落葉高木である。葉は斜卵形で長さ 10~18cm、幅 8~15 cm、7 月ころ淡黄色の花が多く開く。果実は、球形から扇球形で径 8.5mm 程、灰褐色の短毛が密生する。

朝鮮半島・中国（東北部）ロシア（ウスリー島）に生育する大陸系の植物で、日本では岡山県・広島県・山口県に分布し、いずれも高地の谷間などの冷涼地に生育する。

東城町内には、同種の「大元のぼだいじゅ」根回り周囲 1.69m が庄原市指定天然記念物に指定されているが、本樹もこれに匹敵する大きさであり、横山氏裏山の墓地に位置することから大切に保護されたものと思われる。

